

あなたは大切な存在。

あなたに知っておいてほしいこと



配偶者／パートナーや交際相手(恋人)との関係だけでなく、友人・知人などとの関係においても、暴力のない関係を築いていきましょう。そのためには、

暴力を認めない

どんな事情があったとしても、暴力をふるっていいという理由にはなりません。暴力によらない解決方法があるはずで、暴力は、身体的なものに限らず、精神的なものや性的なものもあります。どのような暴力であったとしても、暴力をふるうことは許されるものではないのです。

自分のことを大切にする

人はみんな生まれながらにして一人ひとり大切にされるべき存在です。暴力をふるわれてもいい人など一人もいません。でも、自分を大切にできる気持ちを持っていないと、暴力をふるわれたとき、相手に対してははっきりと「NO」の意思表示をすることが難しくなります。あなたは、自分のことは自分で決めることができるのです。いやなことには「NO」と言うことができるのです。自分の気持ち、自分の体を大切にできる気持ちを持ちましょう。

相手のことも大切にする

自分のことを大切に思う気持ちと同じように、相手への思いやりの心、相手を大切にできる心を常に持つことも大事です。相手の話に耳を傾けましょう。自分の意見や考えを相手に押しつけず、相手が自分と異なる意見や考えを持っていたとしても、まずはそういった違いがあるということを受け入れましょう。そして、自分はどう思うのか、相手に言葉で伝えましょう。
(「人と人とのより良い関係をつくるために 交際相手とのすてきな関係をつくっていくには」より)

身近な若い人や知人・友人が気になっている大人のあなたへ

私自身は、DVの被害経験はないけれど、という大人のあなたへ。

「暴力をふるわれる人にも、悪いところがある」とか「もっと上手にやればよいのに」などと思ったりしていませんか。

どのような理由があっても、暴力という手段を使って、相手に自分の言うことを聞かせようとするのは、現在では、してはいけないこと、とされています。

直接、相手に暴力をふるっていないくても、被害を受けている方に対して攻めたり、暴力をふるう側を擁護したりすることも、被害者を追い詰めたり、さらに傷

つけることとなります。

「どのようなことがあっても、暴力は認めない」という姿勢を広げていくことが、暴力をふるったりふるわれたりしていないみなさんにも、できることです。

私たちの社会で、すべての人が「どのようなことがあっても、暴力を認めない」に「そう思う」と言えるようになったときに、暴力に苦しむ方々も減っていくことでしょう。

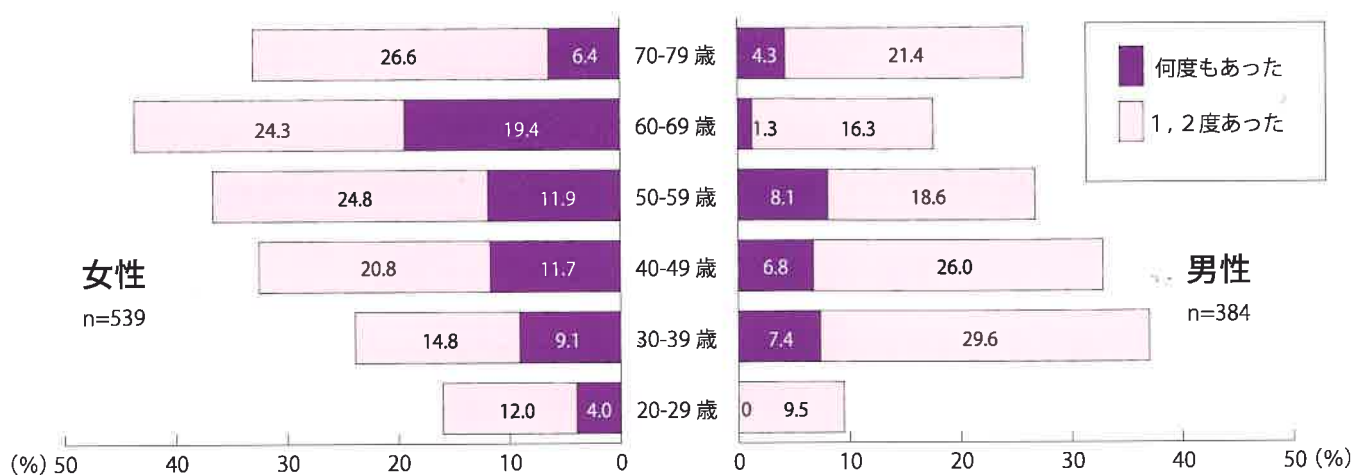
そのような暴力のない未来に向けて、川崎市民のみなさんと、一緒に歩んでいきたいと思えます。

DV、デート DV 被害実態、意識実態

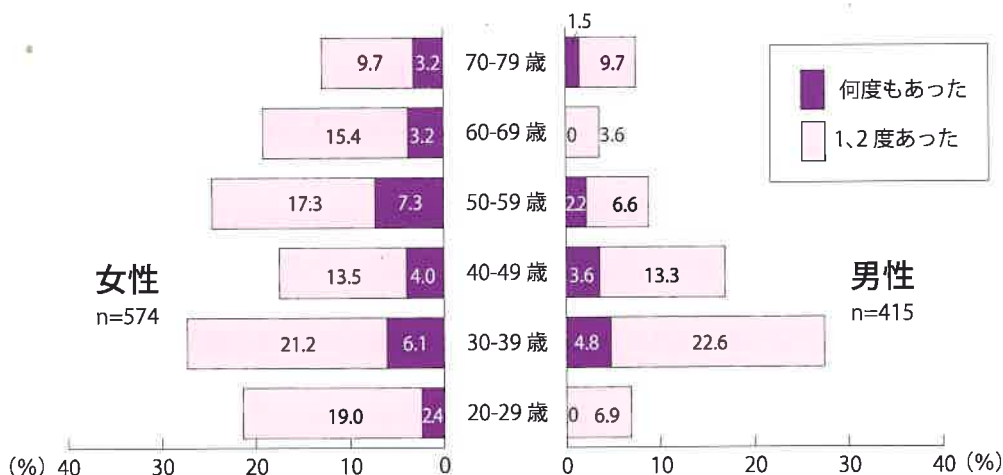
ここでは、かわさきで暮らす人びとの人権について、DV やデート DV の被害の実態や意識の実態という観点から見てみましょう。

DV、デート DV 被害実態(川崎市)

DV被害実態 (性別・年代別)



デートDV被害実態 (性別・年代別)



川崎市でも年齢にかかわらず、DV被害に遭っている方がいます。交際相手（恋人）との間で起きるものは“デートDV”と呼ばれています。配偶者／パートナーとは別に、これまで交際相手がいたことがある人にデートDVの被害経験を聞いたところ、20代では女性の約5人に1人が、30代では男女とも約4人に1人強が被害経験を持っています。全国調査と比較しても、決して少なくありません。

参考文献等

川崎市男女共同参画センター 2018年実施 「かわさきの男女共同参画に関するアンケート調査報告書」

「殴る」「蹴る」だけではない DV

身体的暴力

思い通りにならないと殴る、髪を引っ張る、腕を強くつかむ、物を投げつける、突き飛ばす など

精神的暴力

傷つく言葉を言う、無視する、やさしくすると暴力を交互にして混乱させる、機嫌が悪いのを相手のせいにする など

性的暴力

無理やり性行為をする、避妊に協力しない、見たくないやらしい雑誌や映像を見せる など

社会的暴力

交友関係や電話を細かく監視する、外出をさせない、行動や服装を細かくチェックしたり制限する など

経済的暴力

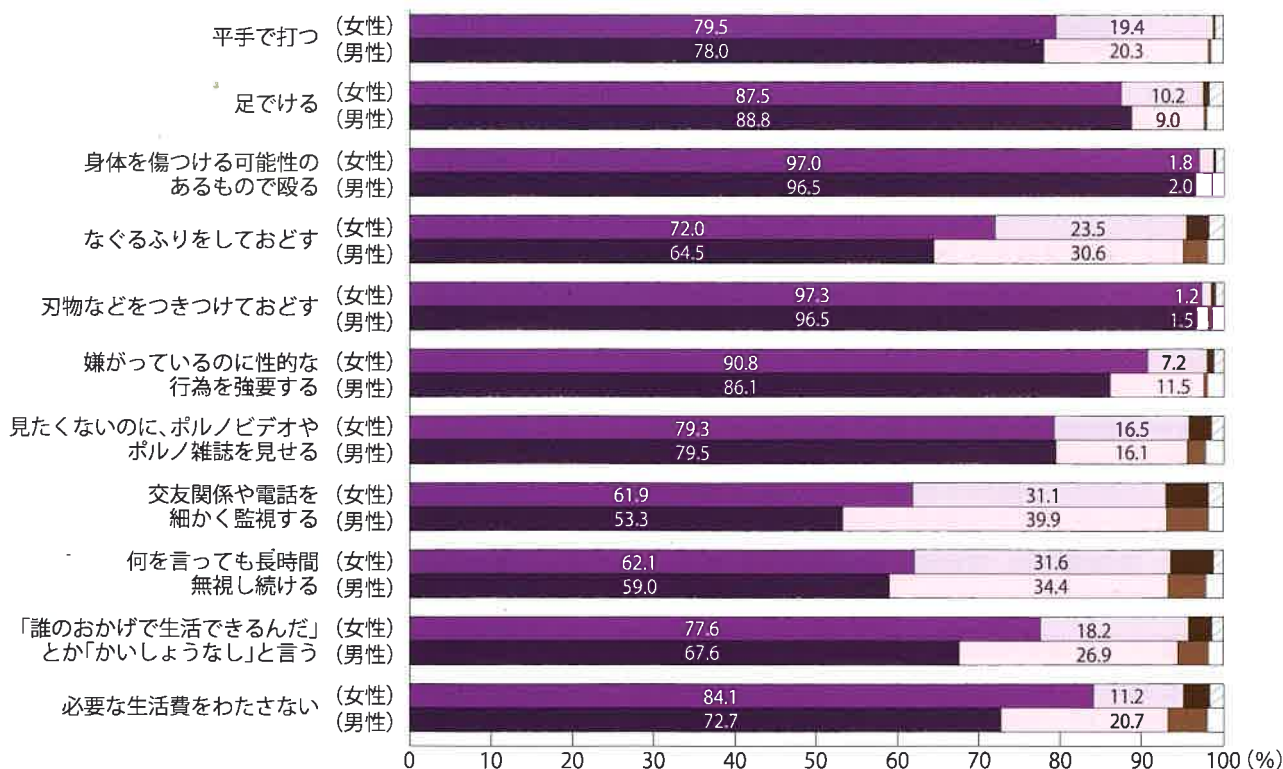
無理やり物を買わせる、お金を借りたまま返さない、デート費用をいつも負担させる など

こんなことが配偶者／パートナーや
交際相手(恋人)などの間で
行われた場合、DV やデート DV に当たります。

DV についての認識 (川崎市)

女性： ■ どんな場合でも暴力に当たると思う □ 暴力に当たる場合も、そうでない場合もあると思う ■ 暴力に当たるとは思わない □ 無回答

男性： ■ どんな場合でも暴力に当たると思う □ 暴力に当たる場合も、そうでない場合もあると思う ■ 暴力に当たるとは思わない □ 無回答



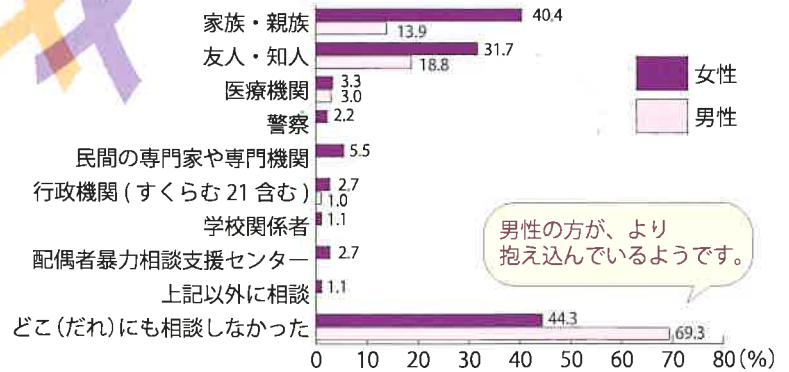
DV は被害者も加害者も「これは暴力だ」「こういうことをしている／されているのはおかしい」と気が付くことが大切です。「交友関係や電話を細かく監視する」ことが「どんな場合でも暴力に当たると思う」人は、女性でも約 6 割、男性では約 5 割に留まります。「何を言っても長時間無視し続ける」ことは男女とも約 6 割となっています。このような「暴力」と認識されづらい行為が認識されていくことも、暴力をなくしていくための一歩になるはずです。

多くの方がDV被害をひとりで抱え込んでいます。

DV 被害者は女性だと約半数、男性だと7割以上がどこ（だれ）にも相談せずに一人で抱え込んでいます。DV 被害の相談先としては、男女とも「友人・知人」「家族・親族」という身近な人への相談が多い傾向にあります。



DV 被害の相談先



男性の方が、より抱え込んでいるようです。

DV は公的機関や支援団体に相談してよい問題です。

「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を知らせる」ことが
“予防への第一歩”と私たちは考えています！

配偶者／パートナーや交際相手(恋人)との関係で「何か違和感がある」「息苦しい」「怖い、逆らえない」…こんな思いがある人は、ひとりで悩まず、まずはご相談ください。

身近に、こんな思いでいる人をご存知の方は、相談してもよいこと、相談機関の情報を、押し付けにならないように、お知らせください。

相談先一覧

川崎市 DV 相談支援センター ☎044-200-0845

月～金曜日 9:30 ～ 16:30 (祝日および年末年始を除く)

悩みを抱えている女性のための電話相談

ハロー・ウィメンズ 110 番 ☎044-811-8600

月～木曜日 10:00 ～ 15:00 金曜日 15:00 ～ 20:00

日曜日 12:00 ～ 17:00 (土、祝日および年末年始を除く)

男性のための電話相談 ☎044-814-1080

水曜日 18:00 ～ 21:00 (祝日および年末年始を除く)

若者が公的機関に相談すること

大人も含めて、私的な関係について公の機関に相談することは、いまだに敷居の高い問題です。

特に、若年層では、市役所・区役所などに用事で出かける経験がほとんどないこともあってか、自分たち若者が公的機関の窓口に出かけても、相手にされないと考えている人もいます。

残念なことに、大人の中にも、デート DV などの若者の問題を知らないか、しっかり対応すべき問題だとの認識が少ない人もいます。

そんなときも、いまだ少数派かもしれませんが、デート DV に悩む若者の相談に乗ってくれる、相談してもどうするべきかを指示しないで受けとめてくれる大人も存在するのです。

そんな大人に出会うまで、あきらめないうで、助けを求めてください。

大人も、若者から相談される、信用される存在であるように、取り組みを進めていきます。

参考文献等

川崎市男女共同参画センター 2018 年実施 「かわさきの男女共同参画に関するアンケート調査報告書」

内閣府男女共同参画局「人と人とのより良い関係をつくるために 交際相手とのすてきな関係をつくっていくには」(平成 30 年度改訂)

http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/violence_research/yobou/kyozai.html (2020.2.24 取得)